

## 【第七回つばきの国俳句大賞】

令和六年二月十二日～十八日、国重要文化財・萬翠荘で、伊予つばき協会主催による「第四十八回伊予つばき名花展」が開かれた。

今年の開花は、ほぼ例年並みで、鉢物約一二〇点と、切り花五〇点ほどが展示された。愛媛ゆかりの品種や、会員が交配してできた新品種など数十種類の椿が並び、丹精込めて育てられた花は、多くの来場者を魅了した。

また、今回は、会員の手作りの搾油器と椿油も展示された。百グラムの種から三十～四十グラムの油が採れるそうだ。高さ五十センチほどの大きさだが、自宅に一台あると採れたての油を楽しめる。



「夢」椿



搾油器（制作 相原誠二）

今年も、この椿展の開催にあわせて椿の俳句の募集があり、「つばきの国俳句大賞」には、百十二句、六十五名の応募があった。

選者は、八木健、山口聰（伊予つばき協会会長）、小泉和子（同理事）で、最終日に結果発表と表彰があった。副賞として、大賞と優秀賞三点の俳句を八木健がアートにして贈呈し、椿の苗木や道後の入浴券も贈られた。

### □大賞

自己主張して熾烈なる紅椿

西野周次

「自己主張」「熾烈」という強い言葉を重ねたことで、椿の花の色の鮮やかさが表現された。また、花を見た作者の驚きと感動も伝わってくる。擬人化が効果的で、花のイメージに人間も重なり面白い。

### □八木健賞

夢と言ふ椿に託す宝くじ

田代善二

今回、「夢」という名前の椿が出品された。一つの花に、白とピンクの花びらがついている何とも不思議な椿である。宝くじとの組み合わせが楽しい。

#### □伊予つばき協会会長賞

ねだられて買ふ林檎飴椿祭

工藤まゆみ

椿神社と呼ばれて親しまれている愛媛県松山市の伊豫豆比古命神社では、毎年旧暦一月八日にお祭がある。花よりも林檎飴の欲しい子どもが微笑ましい。

#### □伊予つばき協会賞

擬人化で描く落椿の嘆き

吉川正紀子

作者によると、まだきれいな落椿を気の毒に思って詠んだが、「自分は高齢でも俳句や川柳を詠んでまだまだ元気に頑張れる」と思ったそうである。

#### □佳作

母の庭ちょこんと陣取る子規椿

上山美穂

寒椿わたしは私であたいだけ

日根野聖子

句の中で輝きを増す椿展

小笠原満喜恵

紅白に誰が並べた落椿

太田和子

八重椿ふふむ姿は媛だるま

渡部美香

掃き寄せる線香の香の落椿

黒田恵美子

ひっそりと咲きて儂い藪椿

井口夏子

花椿朝の静寂に口開く

桑田愛子

音も無く風も吹かんのに椿落つ

相原共良

赤椿わんさか咲いた落椿

森岡香代子

太陽のぬくもりあびつあかつばき

坂口正廣

咲き満ちて人を釘付け花椿

五十崎洋一

椿苗両手に提げて急ぎ足

稲田芳子

そっぽ向き寄り添ふており落椿

中野サヨ子

根岸より子規・律つばき手をとりにて

山田紅衣

落ちてなお私はここよと紅椿

大森英子

椿ら笑う我が推しは桃太郎

森光伸雄

再会を約す真っ赤な寒椿

高橋佐和子

初嵐やっとなついたねと妻に言う

大田 幹

つばき撮るタテ・ヨコ・斜め花愛でる

高岡紀代

窓ごしに湯ざめするまでみる椿

二神照子

紅椿お袖狸の簪(かんざし)か

田中 博

墓仕舞終へたる母郷雪椿

力武由紀子

右から：吉川さん、西野さん、工藤さん、田代さん



展示会場



八木健



